

大地から学ぶ越路の

おいたち



わんぱくサマースクール

【主な内容】

- ・「石を切る快感」岩石の加工
- ・「わんぱくサマースクール 岩石加工教室」開催報告
- ・資料「岩石の分類」
- ・「渋海川と暮らしを考えるシンポジウム」の報告
- ・平成20年度地学講座案内
- ・ミャンマーサイクロン、中国四川省大地震、岩手・宮城内陸地震 被災地支援：募金活動について
- ・地団研専報57 2007年新潟県中越沖地震調査報告書発刊案内

石ころも 切って みがけば 宝物！

「石を切る快感」 岩石の加工

越路、不動沢成出の運動公園管理棟には、今年度から岩石カッター3台と研磨機2台の岩石加工設備が整い、会員向け加工講座が7月5・6日に開催されました。

講師は大学時代、岩石の薄片づくりの経験がある中野雅子さんと機械の操作と整備に抜群の技術をもつ金井幸次さん。

以前巡検で出かけたときに姫川から拾ってきたヒスイを是非切ってみたいと参加された長束さんをはじめ、17名の会員が参加しました。

うなりをあげるモーターの音に「ジャー…」とカッターの刃が石を切断する音、そこはまさに石の加工工場です。

石を切る

とりあえず切ってみます。岩石カッターの水槽に水を入れ、切断するラインを決め万力に固定し、いざ切断。高速で回転するカッターにゆっくりと石をあて、少しずつ力を加えていきます。ダイヤモンドの刃が徐々に石に食い込んでいきます。



【岩石カッター1号機での石の切断】



【岩石カッター3号機、隣は2号機】



【切断した石の数々】

この工房の岩石カッターと研磨機は、顧問団の新潟第四紀グループの研究者が岩石の薄片をつくり鉱物の特定・岩石鑑定を行うために使用されていたものを寄付していただいたものです。

従って、大きな石材加工を行うための機械ではありません。長さ10cm×幅15cm×高さ10cm程度の石がセットできる最大です。このサイズ以下になるようにあらかじめ石をハンマーなどで割る必要があります。

石の切断は意外にも非常に簡単です。石を万力にしっかりと固定し、カバーをかければ石が飛んだり水しぶきがかかる心配もありません。

あとはハンドル操作で石の硬さにあわせて刃の回転が落ちない範囲で力を加えていくだけです。

石を磨く

石を磨くには研磨粉を使用します。ここで用意してある研磨粉は、粒の粗いほうから、60(60番と呼びます)、180、220、500、1000、1500、2000の7種類。

粗いほうから順番に使い、500までは研磨機または鉄板で、1000以上の細かな粒の研磨粉はガラス板で磨きます。



【研磨機で磨く】

研磨機は、水できれいに洗った研磨台に研磨粉をまき、回転させながら均一に研磨されるよう石を動かしながら、時折水と研磨粉を補給してひたすら磨きます。まず 60、カッターの刃のあとがなくなったら 180、など順次 500 まで磨きます。

研磨機や鉄板でだいたい磨けたら、より細かな 1000 の粉でガラス板を使って磨きます。

石を軽く抑えながらガラス板が部分的に磨耗しないよう全面を使い、ただひたすら磨きます。

石を洗ってツルツル・ピカピカしたら完成です。



【ガラス板での研磨：ひたすら磨きます】

川原の石がこんなものに

この工房から川原の石がどのように変貌するでしょう。会員が今までに切って磨いたサンプルを紹介します。鉱物の結晶が見える火成岩や縞模様の變成岩など比較的硬い石ころから「キーホルダー」「ペンダント」「名刺たて」「ペーパーウエイト」などを製作しました。

これらの石は宝石ではありません。川原に転がっている石を拾ってきたものです。原石はそれぞれに個性があり、「磨けば光る」ものです。



【川原の石からの加工品】

と一緒に石を切って磨いてみましょう

川原の石は上流流域の山地を形成する岩石が川によって運ばれてきたものです。

川原にはいろんな種類の石があり、散策するとちょっと気になる石があります。その石は何かを語りかけてくれるような感じがしませんか。

そんなちょっと気になる石を拾ってきて磨いてみましょう。自分だけの宝物となることでしょう。

切って磨いてみたいときがありましたらお気軽に大地の会の役員に声をかけてください。

(文責：小川幸雄)

石ころも きて みがけば 宝物！

「わんぱくサマースクール

岩石加工教室」のご報告

毎年、長岡市教育委員会越路分室では、夏休みの子供たちにかげがえのない体験をしておうという目的で、「わんぱくサマースクール」を実施しています。いくつかのプログラムがありますが、今年は私たち大地の会の「岩石加工教室」をそのひとつに取り入れていただきました。

「岩石加工教室」は、夏休みも終りに近い8月23日。それまでの準備や当日の様子についてご報告いたします。

「岩石加工教室」のねらい

この教室のねらいは、とりあえず、「自分たちの身近なところに転がっている石も、切って磨けば輝くのだ」ということを身をもって体験してもらうこと。そしてできれば、この体験を足がかりにして、石に関心を持ってもらい、石の成り立ち、大地の成り立ちにまで思いを馳せてもらいたい。そんな目的を掲げて、この日のために紆余曲折しながら役員を中心として準備を進めてきました。

どうせ作るなら、アクセサリーになるように加工したほうが子供も喜ぶのでは？という議論もあり、石に穴を開ける手法をいろいろと検討したのですが、時間的にも技術的にも難しいということがわかり、今回は断念。教室では、石を切って磨けば完成するように「ペーパーウェイトを作る」ことを目標にしました。

また、この教室の中でも、少しは石のことについても理解を深めてもらいたい、ということで、大地の会顧問の荒川先生においでいただき、石の鑑定や解説をしていただくことにしました。

わんぱくサマースクール全体の案内は、越路地域の各戸に回覧されました。岩石加工教室の募集人数は15~20人。いったい何人の子供たちが来てくれるのでしょうか???

当日やってきた子供たち

「岩石加工教室」は13時~16時。12時45分頃から、ちらほらと自転車で乗って、あるいは車で送ってもらって、子供たちが集まってきました。自分で河原で探した石を持ってきた子、親に石を持たされてきた子、様々です。石を持って来なかった子に

は、あらかじめ用意しておいた石のなかから好きなものを選んでもらいました。

そして、開始時間には、10人の子供たちと保護者の方2人が集まりました。

「岩石加工教室」のはじまりはじまり~

まずは、「わんぱくサマースクール」担当の長岡市教育委員会越路分室の桑原さんと小川会長の挨拶のあと、石のイロハを荒川先生がやさしく教えてくださいました。『大きくわけて、石には3種類あります。マグマが固まってできた「火成岩」、地上の岩石が削られ小さな粒になって運ばれ、堆積して再び岩石になった「堆積岩」、火成岩や堆積岩が高い圧力や熱を加えられて変質してできた「変成岩」。みんなの石はこのうちのどれかな?』そもそも子供たちは、マグマが何かということを知らないようで(大人でもよくわからない・・・) その辺のところから荒川先生の解説がはじまります。

石はちょっとムズカシネ。でも、とりあえず切って磨いてみよう! ということで、簡単な作業説明ののち、いざ加工開始。

はじめて石を切って磨いたゾ

3台の岩石カッターをフル稼働させて、順番に切っていきます。刃物で危険が伴うため、基本的には、役員が石をセットし、石をカッターに押し付けるためのハンドルを子供たちがゆっくりと回していきます。初めて見る岩石カッターと、徐々に切れ目の入っていく石の様子に、子供たちの目は興味津々。「うわっ、切れた~」ヨカッタネ。

これまで、3台のカッターを同時に使うなんてことはなかったので知らなかったのですが、途中、なんどもブレーカーが落ちました。そのたびに、一時休憩。



【石を切る うわ~、すごい機械だな~】

石が切れたら次は磨き作業です。今回は、ちょっとアブナイ研磨機は使わずに、鉄板やガラス板の上で研磨粉をつけて、完全手作業で磨くことにしました。大人がやったのと同じように、60番、220番、500番、1000番、1500番の研磨粉を順番に使って磨きあげてゆきます。ちゃんとぴかぴかにできるかな？

やはり、研磨作業は気の長い作業です。集中できる子は、着々と磨き上げてゆきますが、そうでない子は、次第に飽きてくるようです。さすが子供、ガラス板の上でらくがきを始めたりにしていました。「あと何分磨けばいいの？」「あと5分」「ヨシ」。自分の腕時計に気が行ってしまい、手の動きが止まっていたりして……。なだめたり、すかしたりして、ようやくみんなが磨きあげることができました。

磨きあがった石の表面は、石ころだった時の表面と違って見えます。粒々がよく見えるようになったり、まったりとした光沢を放っていたり。子供たちも満足気です。キレイダネ～。

さらにぴかぴかにしたい子は仕上げにラッカーを吹き付けましたが、石本来の輝きを大切にしたいという、玄人好みの子もいました。



【石を磨く ふむふむ、なかなかおもしろいゾ】

自分の石 鑑定講座

仕上がった石を前にして、再び荒川先生の講座。今度は、自分の石がどういう石なのかを学びます。子供たちが順番に先生に石を差し出します。

まずは、粒々が良く見えるか、よく見えないかで、火成岩と堆積岩を判別します。変成岩はどちらにも含まれるようです。

粒々が良く見える火成岩は、粒々の大きさがどのくらいか、黒い部分がどのくらいの割合を占めているのかで大雑把に石の名前を決めてゆきます。『これは「はんれい岩」という石で、この辺では魚沼の三國川の流域に分布しています。川で流されてきてこ

こまできたんだね』粒々がよく見えない石は荒川先生の心眼(?)をもって、細かい粒の大きさと、堆積岩の種類を判定してゆきます。また、粒々が縞状に配列していたり、ミニ断層構造がみられた石は変成岩に区分されました。

こうして、はんれい岩、花崗岩、輝緑岩、安山岩、流紋岩、粘板岩、千枚岩など、続々と名前がついてゆきました。子供たちも、自分の石に名前がついてうれしそうです。



【石鑑定講座 ポクの石はなんだろう？】

こうして無事に終了

最後に小川会長の「また石を切って磨きたいと思う人～？」の問いかけに、全員が「は～い」と手を挙げました。これは本心なのか？誘導尋問がそうさせたのか？？でもうれしい反応に会場のスタッフは満足。自分の力作を大事に持って、子供たちは会場を後にしてゆきました。

今回のような子供たちを対象とした取り組みは、大地の会としても初めての経験でした。準備不足のところはありましたが、楽しく刺激的な経験でもありました。地域に根ざした活動をしていく「大地の会」ですから、今後とも地域のみなさんに喜んでもらえるような活動を続けてゆきたいと思います。「石工房」というすばらしい施設もありますし。

今後とも皆様のあたたかいご理解とご協力をいただければ幸いです。

(文責：中野雅子)

石ころも 切って みがけば 宝物！

資料：「岩石の分類」

地球の地殻を構成する岩石は、火成岩、堆積岩、変成岩に大きく分けることができます。

【火成岩】

火成岩には次の3種類があります。

火山岩：地下にあるマグマが地下の浅いところや地表に噴出して急に冷やされ、ガラス質な組織をもつ岩石。火山ガスの抜けた穴があったり、流状構造を示したりする。地下の深部で晶出した大きな鉱物粒（斑晶）を含有していることが多い。

深成岩：地下にあるマグマが地下の深いところでゆっくりと固まり、鉱物のすべてが結晶になった岩石。鉱物粒が大きくて等粒状を示す。

半深成岩：火山岩と深成岩の中間的なもの。



斑状組織（火山岩）

等粒状組織（深成岩）

火成岩の分類

産状	酸性岩	中性岩	塩基性岩
主要鉱物	(石英・長石・雲母)	(長石・角閃石・輝石)	(長石・輝石・かんらん石)
火山岩	流紋岩	安山岩	玄武岩
半深成岩	石英斑岩	ひん岩	輝緑岩
深成岩	花こう岩	閃緑岩	はんれい岩

色指数 10% 25% 50%

色指数：有色鉱物の体積 / 岩石全体の体積 × 100

【堆積岩】

堆積岩にはその成因から次の4種類があります。

水成碎屑岩：地殻を構成する岩石から、浸食・運搬により堆積・固結した岩石。

火山碎屑岩：火山お噴火に伴い噴出した火山灰など火山性の碎屑物が堆積・固結した岩石。

堆積物の種類と堆積岩

	泥 1/16	粘土	泥岩	粘土岩	頁岩・粘板岩
		シルト		シルト岩	
水成碎屑岩	砂 2mm	微粒	続成作用	砂岩	
		細粒			
		中粒			
	礫	粗粒		礫岩	
		小粒			
		中粒			
火山碎屑岩		火山灰	凝灰岩		
		火山礫	火山礫凝灰岩		
		火山岩塊	凝灰角礫岩 火山角礫岩		
生物岩		貝殻、フズリ、有孔虫、サソ など	石灰岩		
		放散虫、珪藻の殻 など	チャート		
		植物	石炭		
化学岩		CaCO3	石灰岩	化学的沈殿により生成	
		SiO2	チャート		
		CaCO3・MgCO3	苦灰岩		
		NaCl・KCl	岩塩		
		CaCO3・2H2O	セッコウ		

生物岩（有機的堆積岩）：有機的な物質が沈殿・固結した岩石。

化学岩（化学的堆積岩）：化学的な成分が沈殿・固結した岩石。

【変成岩】

変成岩は、一度できた岩石がその後の新しい条件（熱や圧力）により変成してできた岩石で、再結晶作用や変成作用によりもとの岩石とは異なった外観を示す岩石。

接触変成岩（熱変成岩）：ホルンフェルス、結晶質石灰岩

動力変成岩

- ・広域変成作用：粘板岩、千枚岩、砂質片岩、黒色片岩、緑色片岩、片麻岩、蛇紋岩
- ・圧砕変質作用：圧砕岩

わんぱくサマースクールでの荒川勝利先生の資料及び説明内容から作成。（文責は大地の会）

越路地域ふるさと創生基金事業

「渋海川と暮らしを考えるシンポジウム」

が開催されました

(財)こしじ水と緑の会 西山 拓

平成20年7月13日「渋海川と暮らしを考えるシンポジウム」が、越路地域を流れる身近な渋海川を題材に、先人達の苦勞、川の恵み、可能性など、これから生きる私たちと川と暮らしを考えることをテーマに開催されました。



開催日	交通機関のご案内
平成20年7月13日(日)	<ul style="list-style-type: none"> * JR越後岩塚駅から……………徒歩5分 * 越後交通振興バス停から……………徒歩10分 * 駐車場……………(株)ホーネンアグリ・越後岩塚駅前 <small>※駐車スペースに限りがある為、ご希望の際は公共交通機関をご利用ください。</small>
会場 越路公民館 十楽寺分館 (旧助分者会館) 長岡市越路2024番地1 TEL 0258-92-4853	入場無料 道徳会へお申し込みください。
プログラム 12:20 開場 13:00 [第1部] ○ 総合・基調講演その1 基調 「渋海川の機械水防力と今後の治水のあり方について」 <small>(新潟大学名誉教授、新潟大学入道学長、新潟県入道知事、大規模河川研究家)</small> 講師 大熊 孝氏 ○ 基調講演その2 「川のはたらきと流域での暮らし」 講師 中俣 均氏 (法政大学)	14:50 [第2部] ○ 地域報告 「新潟・中俣町における水争いの歴史からの報告」 講演 中俣 均氏 (新潟県中俣町) 15:15 [第3部] ○ パネルディスカッション(テーマ:渋海川と暮らし) 司会 中俣 均氏 (新潟県中俣町) 中俣 均氏 (新潟県中俣町) 井上 信光氏 (新潟県新井市) 白 井 聡氏 (新潟県) 金子 敏氏 (NPO法人)
17:00 閉会	

主催：渋海川と暮らしを考えるシンポジウム実行委員会
 協力：財団法人こしじ水と緑の会
 後援：新潟県長岡地域振興局、長岡市、信濃川左岸土地改良区、越路原土地改良区、新井区、十楽寺区、新井中地区、JA越後ながおか、JA越後さんとう、越路水たのびの会、越路もみじの会、信濃川フィールドミュージアム会
【事務局】長岡市越路支所地域振興課 〒949-6493 長岡市越路715番地 TEL:0258-92-5901 FAX:0258-92-3333 E-Mail:kaj-chikiki@city.nagasaki.jp

スタッフは、周辺地区の区長さん、信濃川左岸土地改良区の方々、ふるさと創生基金実行委員会の方々など、総勢23名で構成し、準備を進めてきました。当日は、30を超える暑い中、越路公民館十楽寺分館に、地元越路地域の方々をはじめとし、200名以上の方々が集まりました。

シンポジウムは3部構成で、第1部は、大熊孝氏(新潟大学名誉教授・こしじ水と緑の会理事)中俣均氏(法政大学教授・こしじ水と緑の会理事)のお二方による基調講演でした。大熊氏は、「渋海川の地域水防力と今後の治水のあり方」という演台で講演されました。ご講演では、治水に関する土木技術の



大熊孝氏の講演

考え方を平易に解説され、現在の治水工事の問題点について言及されました。また、「瀬替え」などの渋海川の特徴について解説され、過去の洪水における水防事例をお話しされました。今は閉校し、無くなってしまった岩塚小学校の校歌には、渋海川の氾濫に基づいた歌詞があり、地域の自主的な水防力が高かったことも紹介されました。岩塚小学校校歌の2番をご紹介します。

「青田をうるおす川瀬の水も
 時にはあふれて里人たちの
 たわめぬ力を鍛えてくれる
 われらも進んで仕事にあたる
 心とからだを作ろう共に」

中俣均氏は、「川のはたらきと流域での暮らし」の演台でご講演されました。身近な川としての「里川」という考え方、川の利用法についてお話しされました。川の利用法では、飲用、農業かんがいなどの直接利用や、水運、漁業などの間接利用だけでなく、遊びや景観などの水空間の利用が重要であることを説かれました。また、川を含んだ日本の村落の原風景についても解説されました。



中俣均氏の講演

お二人の基調講演は、川を総合的にとらえる上でとても示唆に富んだものでした。



関谷孝次郎氏の報告

第2部は、関谷孝次郎氏（元信濃川左岸土地改良区理事長）から、渋海川にかつて設置されていた、飯塚・十楽寺堰における水争いについて報告がありました。このようなお話が無ければ分からない、水をめぐる争いがあったことを知る事ができました。

休憩をはさみ、第3部は、パネルディスカッションが行われました。コーディネーターは、地元越路出身の中静透氏（東北大学教授・こしじ水と緑の会理事）パネリストは大熊孝氏、中俣均氏、中俣孝氏（長岡市地域振興局地域整備部長）白井忍氏（地元林業家）井上信夫氏（環境省希少野生動植物種保存推進委員）金子敏氏（NPO法人ドリーム理事長）の6名で行われました。

コーディネーターの中静氏のはからいで、会場に意見を求めたことで、パネリストだけの話だけではなく、会場からの質問や意見も活発にあがり、「渋海川の価値をみなおし、もういちどその魅力を見つめなおすきっかけ」となったパネルディスカッションでした。

パネリストの方々からの総括として、大熊氏からは「自然と共生するには多少なりとも我慢が必要である」こと、中俣均氏からは「上流下流のつながりのある活動をすべき」ことが述べられました。

行政の代表として招かれた中俣孝氏からは、「川にもっと関心を持って欲しい」こと、地元の白井氏からは信越線線路工事のための砂利取りのお話が出ました。



パネルディスカッション

自然環境保全の立場から井上氏は、「今ある川の自然の良いところを探す事が大切」と述べ、「人が分からないだけで、川の生きものたちは、頑張ってお生息している」ことをお話しされました。

地元NPOの金子氏は、「堰の魚道などの維持管理は、行政に任せるのではなく、NPOやボランティア組織で地域の人々が実施する」ことの重要性を説きました。

パネルディスカッションで、会場からの意見も活発にあがったことで、会場内の全員が一体となり、渋海川の魅力や、これからの関わり方を考えるきっかけを得たと思います。

気温の暑さだけでなく、参加の方々の熱気にも包まれたシンポジウムでした。きっとこれから、地域の力が渋海川にそそがれ、魅力ある川に育っていくことと思います。

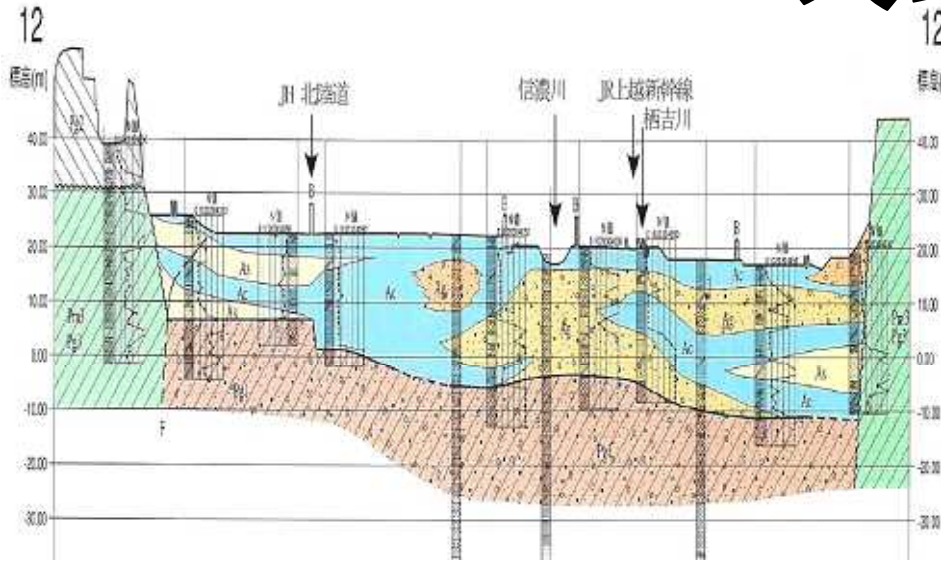


熱気にあふれた会場

統一テーマ

平成20年度「大地の会」地学講座

ふるさととの大地と緑



信濃川の川原



朝日城の森

長岡市街地の北を通る東西方向の表層地質断面図(『新潟県地盤図(2002)』より)

会場： 越路総合福祉センター3階 電話92-4656 (巡検は、越路総合福祉センター集合)

受講料： 大地の会会員 500円 一般 1,500円

申込み： 9月12日(金)まで長岡市教育委員会越路分室へ 電話0258-92-5910

日程・内容

回	日時・講義内容	講師	講演内容
第1回	9月18日(木) 開講式 19:00~19:30 講演 19:30~21:00 講演「長岡地域の平野地盤とその生い立ち」 ～良い地盤とそうでない地盤の由来～	(株)興和 調査部技師長 鴨井 幸彦 氏	平野の地盤は場所によって大きく違っています。長岡地域の地盤はどのようになっているのでしょうか。それはどのようにしてできたのか、などについてお話しします。
第2回	10月2日(木) 講演 19:00~20:30 講演「石ころとの語らい」 ～信濃川水系の石ころ～	新潟県地学教育研究会 会員 新保 暢一 氏	川原の石は、私たちの住んでいる大地のおいたちを語ってくれます。信濃川と渋海川の石ころを比較すると違いがわかります。川原の石を見つめて大地のおいたちを探ってみましょう。
第3回	10月19日(日) 野外巡検 9:00~17:00 「川原の石の採取・観察、そのルーツを探る」 信濃川、魚野川とその支川流域： 長岡市、小千谷市、川口町、魚沼市、南魚沼市	新潟第四紀グループ	越路の川原にはいろんな石ころがあります。その石ころはどんな種類の石か、それはどこから流れてきたのか。信濃川、魚野川をさかのぼって調べてみましょう。
第4回	10月23日(木) 講演 19:00~20:30 閉講式 20:30~21:00 講演「越路の自然」 ～朝日城の森の植物相について～	(財)こしじ水と緑の会 理事 平澤 聡 氏	かつては人の生活の場であった里山は、時代の流れの中で放置されたまま今に至っています。近年、越路の里山の典型を示す「朝日城の森」で、森の整備にあわせてはじまった植物調査の状況を中心に報告します。

主催： 大地の会 ・ 長岡市越路公民館

ミャンマーサイクロン・中国四川省大地震
岩手・宮城内陸地震

被災地支援：募金活動について

(チーム中越・ミャンマー・中国支援プロジェクト)

世界各地で大きな災害が発生していることから、私たち中越の想いや経験をミャンマー・中国で被災した方々に届けようと「チーム中越・ミャンマー・中国支援プロジェクト」が立ち上がりました。

大地の会では「中越復興市民会議」から賛同団体への参加要請を受け、役員会で協議し活動に参加することとしました。チーム中越とプロジェクト及び大地の会の取り組みは以下の通りです。

プロジェクト主旨

私たち中越は、7.13 水害、中越大震災、中越沖地震と度重なる大災害を経験しました。様々な苦難に直面するたびに、私たちを支えてくれたのは世界中からの支援と人々の絆でした。おかげで、私たちは苦難を乗り越え、いま復興に向け力強く歩みはじめています。

現在、ミャンマーではサイクロン災害によって、また中国では未曾有の地震災害によって、多くの人が筆舌に尽くしがたい苦境に立たされています。国は違えども、災害を受けた人々、地域の苦難、そして、これから長きに渡る苦闘の中での復興の歩みは、程度の差こそあれ、私たち中越が経験したことと同じであろうと想像いたします。

今こそ、私たち中越 (CHU-ETSU) は、世界中から受けた支援に対し、中越の想いと経験をミャンマー・中国に「お返し」すべきではないかと考えます。そこで、ここに、中越の幅広い産官学民のネットワークで「チーム中越・ミャンマーサイクロン・中国四川大地震災害被災地復興支援プロジェクト」を立ち上げ、広く中越地域の賛同者を募り、長きにわたる復興の支援を行っていきたく思います。

いつの日か、災害という苦難を乗り越えた地域同士が、固い絆で結ばれることを願いつつ。

～絆 (KIZUNA) は国境を越えて～

賛同団体と活動内容

プロジェクトの主旨を理解したうえでプロジェクト活動の中の何らかの活動が手伝える団体

プロジェクト1 募金活動

市民の皆様に対する募金活動

企業の皆様に対する募金活動

プロジェクト2 中長期にわたる被災地の復興支援
検討委員会の設置



募金活動の様子

中長期にわたる被災地の復興における人的、ノウハウ支援

長期的なアジア諸国と中越の防災共同研究の検討

プロジェクト事務局等

代表 羽賀友信(長岡市国際交流センター「地球広場」センター長

事務局 (社)中越防災安全推進機構・復興デザインセンター

大地の会の活動内容

6月26日(木)総会・記念講演会における募金活動

6月26日より越路総合福祉センターにおいて常設募金箱の設置による募金活動

募金活動の結果

6月26日より募金活動を開始し7月末までに集まった募金をプロジェクト事務局に届けました。

募金額 8,103円

ご協力ありがとうございました。

その後、岩手・宮城内陸地震が発生しています。復興デザインセンターではこの地震の支援を行っています。プロジェクト事務局の要請に基づき継続して募金活動を実施します。ご協力をお願いします。



チーム中越
Team-CHU-ETSU

地質学的未来派宣言
新潟県越路 大地の会

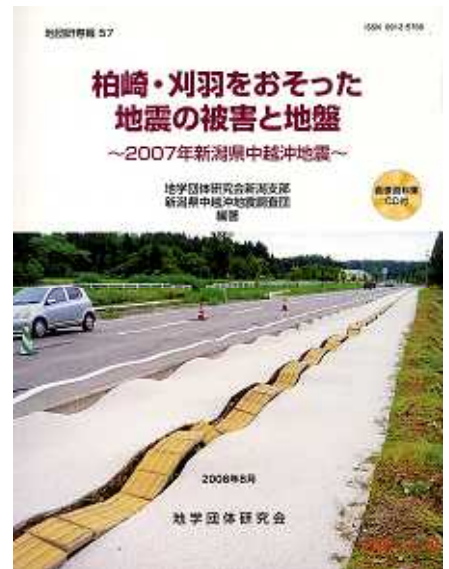
柏崎・刈羽をおそった地震の被害と地盤

発刊案内

地学団研究会から昨年7月16日に発生した「新潟県中越沖地震の被害と地盤」についての研究をとりまとめられた書籍が発刊されました。

本書は、地学団研究会新潟支部 新潟県中越沖地震調査団が、地震発生直後から組織的に実施された、詳細な現地調査に基づく研究報告書であり、この調査団には、大地の会の顧問団の先生方の多くがこの調査・執筆・編集に関わっております。

地学団研究会会員頒布でなっていますが、大地の会会員希望者分を確保します。希望者は事務局にお申し込み下さい。なお、頒価は1,200円です。



目次

口絵

まえがき

第1章 調査地域と調査方法

第2章 中越地域西部の地形と地質

2-1 地形

2-2 地質

2-3 褶曲構造の特徴

2-4 水準点測量による観測と隆起運動

2-5 柏崎沖の海底地質構造と内陸部の活断層

第3章 地震動の特徴

3-1 2007年7月16日そのとき

3-2 地震発生のメカニズム

3-3 余震分布の特徴

3-4 強震動の特徴

3-5 地表のゆれ方の特徴

3-6 地震動による地盤変位

3-7 ゆれと被害との関係

第4章 砂丘地の被害

4-1 地形と地質

4-2 各地の被害と地盤

4-3 まとめ

第5章 沖積低地の被害

第6章 柏崎平野縁辺部の被害

第7章 新第三系分布地域の被害

第8章 墓石の被害

第9章 米山海岸南部と上越地域の被害

第10章 今後の防災に向けて

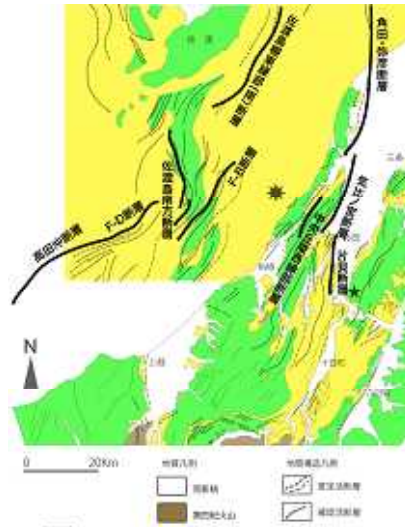
引用文献

補遺 柏崎刈羽原発の地盤変動

- 柏崎平野周辺の上部更新統の層序と構造運動

謝辞

あとがき



お知らせ

新津石油の世界館友の会市民講座「大地を探る：地盤の災害」開催案内

大地の会と交流のある「石油の世界館友の会」では地盤災害に焦点を当てた講座が開催されます。大地の会顧問の山崎興輔先生が講師を務められます。

テーマ：「大地を探る：地盤の災害」

第1日目 日時：平成20年9月20日(土) 13:00～16:30

内容： 地震のいろは 山崎興輔氏（石油の世界館友の会）
中越沖地震の現地レポート 大野隆一郎氏（ " ）

第2日目 日時：平成20年10月4日(土) 13:00～16:30

内容： 近年の河川災害 佐藤成昭氏（環境地質化学研究所）
斜面崩壊 - シーサイドラインの斜面防災を例として -

川島隆義氏（石油の世界館友の会）
三条水害のレポート 木村澄枝氏（ " ）

会場 新潟市秋葉区古津 597 金津地区コミュニティセンター

募集人員 聴講者 30 名

受講料 500 円（資料代など）

申込先 金津地区コミュニティセンター 電話/FAX：0250-25-1101

申し込み締め切り 9月15日(月)



「語りつぐ10.23」-ふるさとの大地と中越地震- CD版の頒布

昨年発刊した大地の会中越地震体験集のCD(pdf)を作成し頒布しています。一部500円です。ご要望の方は事務局まで申し込みください。

会員の皆様へ

会員募集！仲間づくりにご協力をお願いします

大地の会では、大地の成り立ちや防災、環境、遺跡など我々の生活に関わる地学の課題をともに学びあう仲間（会員）を募集しています。知り合いの方々に声をかけていただき活動の和を広げましょう。ご協力をお願いします。

年会費 個人 1口 1,000円（中学生・高校生は無料）

家族会員 500円（同一生計は何人でも）

（講座・巡検参加の際は資料代等年会費とは別に500円程度必要となります）

賛助会員 1口 10,000円

申し込み先：長岡市教育委員会越路分室 又は大地の会役員にお願いします。

会報「おいたち」への投稿をお願いします。

「おいたち」は大地の会の活動内容を参加できなかった会員への報告や地学・地域づくりに関する情報提供を行うとともに、会員同士の意見交換・情報交換の場です。記事掲載のご要望や投稿をお待ちしています。

賛助会員紹介

帝国石油株式会社国内本部

朝日酒造株式会社

株式会社エコロジーサイエンス

有限会社越路地計

大原技術株式会社

有限会社広川測量社

高橋調査設計株式会社

株式会社長測

有限会社中越測量社 順不同

大地の会会報 おいたち 55号

2008.9.1 発行

問合せ先 〒949-5493 長岡市浦 715 番地

長岡市教育委員会越路分室

担当 桑原浩志 TEL 0258(92)5910

ksj-kyoiku@city.nagaoka.lg.jp

大地の会代表 小川幸雄 携帯：090-4672-7681

事務局 e-mail：koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp

大地の会 URL：<http://daichinokai.sakura.ne.jp/>